

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和5年7月6日(木)

みんなの居場所

「縁組」不備田「プロフェッショナル」について考えたー？

私「プロフェッショナル私の流儀」というNHKの番組をみかけたのですが、何か凄いなばかり出るなあ…なんて思いついて見えています。この私も教師をしている以上は、プロフェッショナルでありたいと願う一人です。色々な職業のプロの流儀を見てきたが、教師としての職業の流儀とはいつまで何なのだろうか。私なりに考えてみました。

やはり、仕事とは何なのだろうか。「生業」という言葉がなまじり、生きていくための金銭を得るための活動である。活動の対価として金銭を得るものが基本ですね。活動の対価ですから、個人や集団が利益を得て、満足感や充実感を得ているはずです。堅く話になると面倒なので、簡単な話になります。教師としての職業は、活動によって子供達を保護し、地域の皆様「喜び」を届けること。提供しなければならぬ職業だと私は捉えています。この「生業」も「業」であり「喜び」を生む「生徒」指導「等々」、業務は争むには限りがあります。そこで、私が考えた教師としてのプロフェッショナルとは…次の3点です。

「期待に応えるために、その時にできることを、全てやり尽くす人」

「最適解を見つけるための努力を怠らない人」

またまた私は修行中ですので、プロとは言い難い職業人です。ですが、この目の最適解を見つめるための努力は怠っていません。私はそれをしていないと落ち着かないんです。昔は「教員」でもなれば将来は「わちわち」なと言われた時代がありました。今は違います。新しい知識を刷新して行かないといけないんです。読者の皆様の現場ではいかがでしょうか。このような職業にも「縁組」や「キヤリア」が、パフォーマンスに影響し、当然それは仕事の対価に影響します。いわゆるキャリアシフトです。しかし、学校の教師は大学を卒業した直後から「先生」と呼ばれるようになります。若手であってもバテメンションであつたが、子供達を保護者の皆様から同じような活動を求められるのです。この様に思いましたが、このように仕事でも同じような場面はあつてはダメです。

先日、NHKのこの番組を見て、「こんな言葉が紹介されました。」

「サラリーマンとして、筋を通せー」
教師としての筋を通していかか、子供達への指導、教師への指導、保護者の皆様への接し方、地域の方々と接し方等々、筋が通つていなか、帰りの車の中で頭を固くする、不安な田中様。

自分のことを、この世の誰とも比べてはいけない。それは自分自身を侮辱する行為だ。 ビル・ゲイツ

シリーズ「自分を語る」#105

学校を切り替えるのは「仕掛」が必須です。私がこれまでに行ってきた多くの行事も仕掛の1つですが、それよりも何よりも、口語生活の中の有用感を味わわせたいことを入れました。

まず「系活動」について、自分たちで考えなければならぬ議論ですが、楽な仕事を考えるのは、学校全体が同意を被る喜びという視点が考えられません。出かけた後活動の一部を紹介しよう。草取の係「サイクル係」「時間係」…。「草取の係」は、草の如く、学校敷地内の草取りを行います。運動会から実施、正門付近の斜面が草が多いところもその草取りを行います。運動会からこの時、時間を決めて活動するところも「草取り」の意味があります。始業前に活動です。草取り係は、問題を提起して「草取り」の意味があります。私「草取り」を取りました。そこへ、活動の終わりに「お疲れ様でした。」と声をかけました。その後、朝の7時頃に移動して、「サイクル係」は、学校敷地内に何故か置いてある物や使わない物を集めて、整備整備している係です。この係は先生方からも感謝の言葉を頂戴しました。先生方が整備整備の意識を持ち始めるという次の効果もありません。「時間係」は、休み時間の終わりに活動します。休み時間に行へないも、当然熱中して時間も忘れます。そこで係が大声で叫びます。「掃除始めよう〜」これで仕事は終わります。でもこれが効果範囲でした。6年生が声をかけてくれるようになって、あっという間に学年が校舎に入っていました。最上学年としての自覚も出てきたようでした。このように係活動をしながら、職員には「褒める」ように協力働きかけています。子ども達も係活動もこのように褒められ、自己有用感が飛躍的に向上してました。「わちわち」になっていた係活動はいつの間にか、簡単なことになりました。この係活動を6年生から出来たあたりからという視点から考え直して、それまであった殆どの係活動が削除されました。例えば「落ちて」物係、高学年なら持ち物に名前を書けるのは当然だ、落ちて物があれば本人に届けなければいけませんから、無くなりました。「掃除係」これも絶対やらなければならないこととして削除されました。このようにして、多くの係活動が無くなり、新しい活動が生まれていきました。その中には当事者としての意識が芽生えつつありました。

当時を振り返る時、私「どう思います。思春期、あの頃の入り口に、児童達ですから、大人として扱う側面と、子どもとして接する側面をうまく混ぜることが重要だと。少し背伸びしたい時期なようです。高学年は、とも、隠れたままは頼りになる大人に助けを求めたいです。何だかんだ言っても子どもから「お世話」のこの「灯台」が必要なのです。まずは自由に行動させながら、適切な指導をする目か私達教師であり、保護者でもあります。私「いつまで平成30年度か、私のこの考え方が集団にベストマッチした1年でした。」「この子は、多くの場面で結果を出してました。」 (105)